

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 藤が丘プロジェクト 新築工事	階数	地上14F
建設地	愛知県長久手市南原山25番1	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第1種	平均居住人員	174人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 予定	評価の実施日	2016/8等
敷地面積	1,958 m ²	作成者	廣瀬訓子
建築面積	516 m ²	確認日	2016/8等
延床面積	3,918 m ²	確認者	廣瀬訓子

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

音環境	3.4
温熱環境	2.9
光・視環境	2.8
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

機能性	2.7
耐用性	2.9
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

水資源	3.0
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.3
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>28.0 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	28.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	28.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3-1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3-1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音				住居の騒音レベル40dB以下を目標とする。	2.0	0.15	3.7	1.00	3.4
1.2 遮音					2.0	1.00	4.0	0.50	
1.2.1 開口部遮音性能					-	-	3.4	0.50	
1.2.2 1 開口部遮音性能					-	-	3.0	0.30	
1.2.2 2 界壁遮音性能					3.0	-	3.0	0.30	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				Lr-45を目標値とする。	3.0	-	4.0	0.20	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				Lr-50を目標値とする。	3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境									
2.1 室温制御					2.8	0.35	3.0	1.00	2.9
2.1.1 室温					2.6	0.50	3.0	0.71	
2.1.2 1 外皮性能					3.0	0.63	-	-	
2.1.2 2 外皮性能					2.0	0.38	3.0	1.00	
2.1.2 3 ゾーン別制御性					4.0	-	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	0.29	
2.3 空調方式					3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境									
3.1 昼光利用					1.9	0.25	3.0	1.00	2.8
3.1.1 昼光率					3.0	0.30	3.0	0.50	
3.1.1.1 1 昼光率					3.0	0.60	3.0	0.50	
3.1.1.1 2 方位別開口					3.0	-	3.0	0.30	
3.1.1.1 3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					1.0	0.30	3.0	0.50	
3.2.1 1 昼光制御					1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策					3.8	0.25	4.0	1.00	3.9
4.1.1 1 化学汚染物質				すべてF☆☆☆☆のものを採用している。	5.0	0.60	5.0	0.63	
4.1.1 2 アスベスト対策					5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気					2.0	0.40	2.3	0.38	
4.2.1 1 換気量					1.0	0.50	1.0	0.33	
4.2.1 2 自然換気性能					4.0	-	3.0	0.33	
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-	-	
4.3.1 1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	
4.3.1 2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ					2.4	0.40	2.8	1.00	2.7
1.1.1 1 広さ・収納性					3.0	0.40	3.0	0.60	
1.1.1 2 高度情報通信設備対応					3.0	-	3.0	1.00	
1.1.1 3 バリアフリー計画				独自	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1.2.1 1 広さ感・景観				居室の天井高を2.5mとする。	4.0	-	4.0	0.50	
1.2.1 2 リフレッシュベース					3.0	-	-	-	
1.2.1 3 内装計画					1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
1.3.1 2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
1.3.1 3 衛生管理業務					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震					2.9	0.31	-	-	2.9
2.1.1 1 耐震性					3.0	0.48	-	-	
2.1.1 2 免震・制振性能					3.0	0.80	-	-	
2.1.1 3 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.33	-	-	
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数				日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を満	5.0	0.23	-	-	
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-	
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09	-	-	
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-	-	
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-	
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-	
2.4 信頼性					2.0	0.19	-	-	
2.4.1 1 空調・換気設備					1.0	0.25	-	-	
2.4.1 2 給排水・衛生設備					2.0	0.25	-	-	
2.4.1 3 電気設備					3.0	0.25	-	-	
2.4.1 4 機械・配管支持方法					-	-	-	-	
2.4.1 5 通信・情報設備					2.0	0.25	-	-	
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり					3.0	0.29	3.6	1.00	3.5
3.1.1 1 階高のゆとり				階高を3020としている。	-	-	4.2	0.50	
3.1.1 2 空間の形状・自由さ					4.0	-	5.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.40	
3.3 設備の更新性					3.0	-	3.0	0.50	
3.3.1 1 空調配管の更新性					3.0	1.00	-	-	
3.3.1 2 給排水管の更新性					3.0	0.17	-	-	
3.3.1 3 電気配線の更新性					3.0	0.11	-	-	
3.3.1 4 通信配線の更新性					3.0	0.11	-	-	
3.3.1 5 設備機器の更新性					3.0	0.22	-	-	
3.3.1 6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	-	-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.7
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4に								
1 建物外皮の熱負荷抑制				5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用								
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
3 設備システムの高効率化				3.8	0.40	-	-	3.8
集合住宅以外の評価(3a,3b)								
集合住宅以外の評価(3a,3b)				4.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)								
集合住宅の評価(3c)			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級3を	3.8	1.00	-	-	
4 効率的運用								
4 効率的運用				3.0	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価								
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング				3.0	1.00	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無								
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.7	0.63	-	-	2.7
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		3.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.21	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。		4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.22	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1 消火剤								
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)								
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒								
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:67%		4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				3.0	0.33	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
1 雨水排水負荷低減								
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制								
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制								
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制								
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-	
1 騒音								
1 騒音	独自			-	-	-	-	
2 振動								
2 振動	独自			-	-	-	-	
3 悪臭								
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67	-	-	
1 風害の抑制								
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制								
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制								
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制								
3.3 光害の抑制				3.0	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)藤が丘プロジェクト 新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10
② 資源の有効活用			2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:28%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 藤が丘プロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	閑静な住宅街に計画された総戸数40戸の共同住宅である。周辺環境に配慮して敷地内を積極的に緑化を行っている。特に隣地沿いには緑地帯を設け、中高木を植えることで周辺に対して景観づくりしている。
Q1 室内環境	開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性能の高いサッシとすることで快適な住環境としている。
Q2 サービス性能	階高を確保することで広々とした天井高を確保している。また建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	建築物を高層とし水平投影面積をコンパクトにすることで、空地と緑地を確保した。また、中高木を配置し積極的に緑化を行っている。
LR1 エネルギー	各住戸内での積極的な自然風の通り抜けを可能にし、自然エネルギーの利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水コマの採用により環境負荷低減に寄与する。
LR3 敷地外環境	同規模の物件によりごみの量を推測してごみ置場のスペースを確保し、分別回収用ダストボックスの設置を計画している。また、ディスプレイを設置し生ごみの軽減を行っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。